

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	目標 (R6)	所見	
基本目標 (1) 暮らしやすさに磨きをかける			年少人口 (0歳~14歳)	人	31,931	31,771	31,731	31,579	31,341	31,484	30,877	31,390	30,538	31,202	昨年度に引き続き、目標値からの乖離は続いており、引き続き子育て支援策等の充実を図る必要がある。	
			暮らしやすいと思う市民の割合	%	80.9	80.9	84.7	82.0	83.0	83.0	80.5	84.0	77.5	86.0	昨年度実績に対し、3.0%減少している。公共交通機関が不便だと感じる市民が77.5%、買い物、日常生活等が不便と感じる市民が5割を超えるなど課題は多い。	
	①子育てしやすい環境整備															
	(i) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援			子育てに大きな不安や負担を感じている市民の割合	%	44.5	44.0	40.6	43.0	37.7	37.0	43.7	36.0	47.1	34.0	20~50代で「負担や不安を感じている」と回答した人が、R3年度で、15.6%であったのが、R4年度では、17.8%に増加している。新型コロナウイルス感染症拡大による経済的な困窮や物価高騰による影響が背景にあるものと思われる。
				合計特殊出生率	-	1.54 (H29)	1.56	1.52 (H30)	1.57	1.48 (R1)	1.58	1.50	1.59	1.39	1.62	全国の合計特殊出生率は、1.30の低水準となっている。全国と比較すると高いが、佐賀県の1.56より低くなっている。
	(ii) 働きながら子育てできる環境整備			待機児童(園指定待機児童) (保育所)	人	85 (241)	111	126 (254)	78	110 (226)	45	3 (284)	0	1 (330)	0	待機児童「1」は医療的ケア児で関係機関と就園に向け協議中。園指定待機児童解消に向けた取り組みも必要。
				待機児童 (放課後児童クラブ)	人	112	142	142	143	68	19	3	11	23	0	特定の施設で受け入れ人数を増やしたが、希望人数が多かったため、待機が発生した。
	(iii) 仕事と生活の調和の実現			男女共同参画推進協賛事業所の登録数	事業所	176	191	189	206	199	221	211	236	230	266	R4年度の目標達成にはいたらなかったが、年間目標15件を上回る19件の登録数を得た。
				男性の1日の家事関連時間「30分未満、全くしていない」人の割合	%	55.2	55.2	48.9	53.2	44.0	51.2	40.1	49.2	45.7	45.2	広報活動やイベントを実施し、男性の家事・育児参画を呼びかけた。
	(iv) 子どもにやさしいまちづくり			「子どもへのまなざし運動」を意識して子どもと関わるようになった市民の割合	%	34.4	36.1	34.1	37.9	33.6	39.7	39.5	41.4	38.6	45.0	子どもへのまなざし運動15周年企画として、大学生と協働で啓発漫画を製作し、新たな方法で運動の周知を図った。また、まなざし運動参加企業と協働し、まなざし運動の取り組みを紹介する企業向け啓発イベントを開催した。様々な団体と協働・連携し取り組んだ結果、ほぼ達成水準の実績値となった。
園児が楽しく幼稚園・保育所(園)に通っていると感じている市民の割合				%	89.7	94.8	85.7	94.8	81.1	94.8	87.8	94.9	89.3	95.0	新型コロナウイルス感染症の影響で、制約がある幼稚園・保育所(園)での活動を、試行錯誤と工夫をすることでできる活動を増やしながら行ってきたことが前年度と比べ数値が上昇した主な要因と考えられる。	
児童生徒が楽しく小中学校に通っていると感じている市民の割合				%	87.6	87.6	81.7	87.6	79.5	87.6	81.8	87.6	81.1	87.6	87.6	新型コロナウイルス感染症の影響で教育活動への制約がある中、実施方法の工夫などで学校行事等が徐々に再開されている。しかし制約期間が長期に及んでいることも影響し、目標値に到達できなかったと考えられる。

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	目標 (R6)	所見
②誰もが幸せを感じる社会の構築															
		(i) 参加と協働のまちづくり	市民活動（まちづくりや地域の活動等）を行っている市民の割合	%	33.1	42.5	24.3	44.0	27.6	45.5	27.0	47.0	30.5	50.0	新型コロナウイルスの影響が減少したことから、昨年度からは数値が上昇しているが、目標値には達していない。今後は、市民活動に関する情報について、幅広い世代に情報が伝わるよう多様な広報媒体を活用した周知啓発に取り組み、市民活動への市民参加の促進を図る。
		(ii) 一人ひとりを尊重する社会の実現	地域での助け合いが行われていると感じる市民の割合	%	70.9	71.2	73.1	72.0	73.6	72.7	77.3	78.0	78.5	79.4	年齢別では、50代、60代のポイントが特に高くなっており、全体も目標を十分達成できたと考える。
			人権や同和問題に関心がある市民の割合 (女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人やLGBTs などへの偏見や差別、インターネットによる人権侵害など)	%	55.7	56.0	56.8	56.8	57.7	57.6	57.2	58.4	55.7	60.0	コロナウイルス感染拡大防止のため、研修機会の規模縮小により、目標達成に至らなかった。令和5年度は、できる限り研修機会の回復を図っていく。
		(iii) 人生100年時代のまちづくり	健康寿命と平均寿命の差	-	男性1.14 女性2.66	男性1.13 女性2.64	男性1.18 女性2.47	男性1.12 女性2.62	男性1.07 女性2.52	男性1.11 女性2.60	男性1.00 女性2.38	男性1.10 女性2.59	-	男性1.08 女性2.57	数値の公表が9月以降
			自分らしくいきいき生活している高齢者の割合	%	71.0	71.6	75.2	72.2	73.6	72.9	73.4	73.6	73.4	75.0	前年度と横ばいの実勢値となっている要因として、コロナウイルス感染症の影響により外出を控える高齢者も多く、日常生活に制限が生じていることが考えられる。コロナウイルス感染症も第5類へ変更されたことから、今後は外出の機会も増えると予想できるため、自分らしくいきいきと生活する高齢者が増加すると考える。
③安心・快適で自立したまちづくり															
		(i) 安全・安心で快適なまちづくり	自主防災組織率	%	71.0	72.0	76.1	73.0	78.8	74.0	78.9	82.0	83.4	86.0	令和4年度の実績については、目標を達成しているが、全国平均値（令和4年度：84.7%）には到達していないため、全国平均値に近づけたい。
			人身交通事故発生率（人口10万人当たりの人身交通事故件数）	件	800	761	737	674	578	596	561	528	469	413	令和2年中からは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛等により前年比で大幅に事故件数が減少しており、令和4年も前年を下回る事故件数となった。交通安全教室等の各種取組により、市民の交通安全意識が高まってきていることも要因のひとつと考えられる。
			河川整備率	%	79.2	79.4	79.2	79.6	79.2	79.7	79.3	79.8	79.4	80.0	函渠及び、護岸の整備を行ったため、整備率が前年度より、0.1上昇している。
			汚水処理人口普及率	%	92.6 (H30)	92.7	92.6	92.7	92.9	92.8	93.7	93.4	94.2	95.3 (R7)	引き続き合併浄化槽の普及率が増加しており、一方で、汲み取り、単独浄化槽の人口減のため相対的に普及率が増加した。
		(ii) コンパクトで機能的なまちづくり	自然と都市が調和した計画的な土地利用が行われていると感じる市民の割合	%	53.2	53.2	52.7	53.2	54.8	54.2	54.9	55.3	48.5	57.3	都市と豊かな自然環境の共生が可能となるよう都市計画マスタープランの見直しも含めて、土地利用の推進を図っていきたい。
			市民1人当たりの公共交通機関（バス）の利用回数	回	14.1	14.2	14.4	14.3	10.7	14.4	11.6	14.5	13.7	14.7	コロナ禍からの回復や佐賀県が実施した「さがバスまるっとフリーDAY」等により前年度から2.1ポイント増加した。
			中心市街地居住者数	人	9,238	9,275	9,083	9,312	8,989	9,349	8,850	9,387	8,803	9,462	R4年度の中心市街地居住者数は前年同月比1.55%の減であるが、佐賀市全体では0.67%の減、全国は0.53%の減となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住（住宅・住戸の建築）が進んでいることが要因と考えられる。
		(iii) 持続可能な低炭素・資源循環のまちづくり	温室効果ガス排出量削減率	%	11.0	12.2	22.6	13.3	35.4	14.5	28.3	15.6	33.2	17.9	【目標達成理由】 ・電力の低炭素化に伴う電力由来のCO2排出量の減少 ・エネルギー消費量の減少（省エネ、コロナ禍における産業の縮小、旅客及び貨物輸送量の減少等）
			1人1日当たりごみ排出量	g/人日	1,009	1,008	1,018	999	992	990	962	981	961	964	ごみの排出量について、事業系が増加したこと及び家庭系が減少したことから、コロナの影響から脱しつつあると推察される。今後の動向を注視するとともに、引き続きごみ減量を推進したい。
			リサイクル率	%	18.2	19.3	18.3	19.6	18.6	19.8	18.0	20.0	18.7	20.5	一人当たりのごみ排出量は横ばいだが、リサイクル率は改善された。要因として、剪定くず・草の処分許可業者の受入れ量が増加したことが考えられる。

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	目標 (R6)	所見
基本目標 (2) 都市の魅力を高め人を惹きつける			佐賀市に住み続けたいと思う市民の割合	%	58.0	58.0	62.0	59.2	61.6	60.4	60.4	61.6	58.0	64.0	昨年度実績から2.4%減少した。引き続き、本市の暮らしやすさに磨きをかける必要がある。
			社会増減数	人	▲41	▲35	▲28	▲28	▲95	▲21	▲217	▲14	428	0	前年度から大幅な転入超過となり目標値を達成したが、一時的な社会情勢によるものと推測される。
①都市ブランディングの強化															
(i) 戦略的シティプロモーションの推進 (佐賀らしさの発信)			シティプロモーションページへのアクセス数	回	2,423	2,500	5,239	3,000	15,368	15,500	20,834	21,000	19,901	21,400	各SNSと連動し各ページへの誘導を行っているため、トップページのアクセス数は伸びていないが、総アクセス数は増加している。
			SNS (フェイスブック、インスタグラム、公式ツイッター、ライン) のフォロワー数	人	25,531	26,700	31,053	27,900	41,542	42,000	46,754	47,000	53,963	57,700	各SNSでの情報発信 (緊急情報除く) 回数が増加したことに合わせ、フォローも増加した。
(ii) 市民が愛着や誇りを感じるまちづくり (シビックプライドの醸成)			佐賀市に愛着を持っている市民の割合	%	88.2	88.2	89.3	88.9	91.0	89.6	89.1	90.3	88.3	92.0	昨年度実績から減少したうえ、目標値も達成できなかった。引き続き、シビックプライドの醸成を図る必要がある。
			佐賀が好きと答えた子どもの割合	%	89.6	90.0	90.3	90.4	90.3	90.8	90.2	91.2	88.3	92.0	「子どもへのまなざし運動」を継続して取り組んできたことで、学校や地域社会との関わり等で、子どもたちが「人の温かさ」や「自己有用感」を感じていると思われ、達成水準に近い実績値となった。
(iii) 街の顔となる駅前空間の形成			中心市街地居住者数 (再掲)	人	9,238	9,275	9,083	9,312	8,989	9,349	8,850	9,387	8,803	9,462	R4年度の中心市街地居住者数は前年同月比1.55%の減であるが、佐賀市全体では0.67%の減、全国は0.53%の減となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住 (住宅・住戸の建築) が進んでいることが要因と考えられる。
			主要商店街通行量	人	51,349	75,000	63,150	80,000	46,780	85,000	51,607	90,000	52,168	100,000	R4年度の通行量は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大期 (第7波) と重なるとともに、断続的な感染症の蔓延に伴い、市民等の外出自粛や中心市街地におけるイベントの開催自粛等の傾向が続いたことから、前年度から一定の回復はあったものの、来街者の回遊が抑制されたことが未達成の要因と考えられる。
			佐賀駅乗客数	人	12,624	12,624	12,348	12,624	8,546	12,624	9,404	12,687	-	12,813	数値の公表が8月末予定
(iv) 自然と調和のとれた都市環境の実現			市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合	%	57.2	57.7	56.3	58.2	56.7	58.7	59.1	59.2	55.7	60.2	市街地での植栽場所の不足などにより、みどりの増加が困難となってきたことが要因と考えられる。今後は、既存のみどりを活かしながら継続して緑化活動 (花苗や樹木の植栽及び管理) を行い、情報発信にも努めていきたい。
			水辺空間に親しみを感じている市民の割合	%	69.6	73.2	73.3	73.7	72.1	74.2	71.9	74.7	70.4	75.7	毎年の豪雨による浸水被害で市民の関心が親しみを感じる水辺空間から水害対策へ移行しているためポイントが下がったと考えられる。
(v) 歴史・文化によるアイデンティティの形成			市内で開催された歴史関連のイベントや活動に参加または自ら取り組んだ市民の割合	%	24.6	24.6	14.9	24.7	9.6	24.8	9.9	24.9	12.0	25.0	これまで縮小・中止となっていたイベントが通常開催されるようになり、各施設の入館者数が増加した。 ◎参考 (R3とR4のイベントや入館者数比較) 大隈重信記念館 R3 : 8,222人⇒R4 : 11,546人、佐賀市歴史民俗館 R3 : 40,514人⇒R4 : 50,058人、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 R3 : 15,084人⇒R4 : 17,577人

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	目標 (R6)	所見	
基本目標 (3) 多様な人材で強い経済をつくる	②交流・関係・定住人口の拡大															
	(i) 観光ホスピタリティの充実	観光入込客数 (日帰り客)	万人	378.0	350.7	332.2	357.7	243.0	364.9	262.9	372.2	281.1	387.2	387.2	新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数は少ない状態が続いた。	
		観光入込客数 (宿泊客)	万人	72.1	69.5	72.6	70.2	38.8	70.9	38.2	71.6	50.4	73.1	73.1	新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、各種旅行支援等により、宿泊旅行の需要は回復傾向となった。	
		観光客1人当たりの消費額	円	6,568	6,601	6,588	6,634	6,601	6,667	6,561	6,700	6,705	6,768	6,768	観光消費額は緩やかに上昇しているが、物価高騰の影響を受けたものと推察される。	
	(ii) 特色を活かした移住・定住の促進	30歳～39歳の転入超過数	人	63	80	123	97	78	115	▲1	133	234	168	168	目標値を達成したが、引き続き移住・定住の促進に努める必要がある。	
		ふるさと納税寄附件数	件	19,359	26,000	63,612	33,800	102,533	43,940	131,388	137,957	162,505	152,096	152,096	前年度と同様に目標値を大きく上回った。一方で件数の増加に対し金額の増加割合が低いためアンバランスな状況を改善する必要がある。 寄付額【R3】1,495,826千円 【R4】1,592,993千円	
	(iii) コンベンションの誘致	大会等誘致数	団体	45	42	33	46	5	48	12	51	22	57	57	新型コロナウイルス感染症の影響で各種世界大会が延期となったため、海外選手団の受入れができなかった。富士しゃくねげ湖水上競技場がオープンし、ボート部の合宿を誘致したものの、水位低下の影響で合宿に至らないケースもあった。引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ合宿や大規模な大会等の開催は少ない状態が続いた。	
				納税義務者数 (所得割)	人	102,360	103,384	103,421	104,417	104,261	105,462	104,813	106,516	105,215	108,657	目標値には至らないが、実績値は伸びている。引き続き経済基盤を強化するとともに、企業の成長を促進する。
				市内総生産	百万円	867,985 (H28)	877,783	878,182 (H29)	877,783	896,659 (H30)	877,783	918,288 (R01)	877,783	-	877,783	数値の公表が12月予定
	①人材の育成と確保															
(i) 多様な人材の確保	就業者数 (全産業計)	人	120,282 (H28)	120,883	120,489 (H29)	121,488	120,724 (H30)	122,095	121,595 (R01)	122,706	-	123,936	123,936	数値の公表が12月予定		
	生徒 (中学2年) の基礎学力の水準	-	0.77	0.78	0.84	0.79	0.74	0.80	0.76	0.81	0.66	0.83	0.83	令和3年度の実績と比較して、0.1ポイント下回っているが、佐賀県の学力水準と比較すると、令和3年度は同ポイントだったことに対し、令和4年度は0.02ポイント上回っている。今後も主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の充実を図っていく必要がある。		
	仕事や学校以外で、何らかの知識や技術を身に付けるための取組をしている市民の割合	%	27.9	42.4	30.0	43.9	30.0	45.4	27.6	46.9	26.6	50.0	50.0	感染防止対策を講じることにより取組みの場は増えたと思われるが、実績値はR3年度より微減傾向にある。 これは、活動意欲の高い60歳以上の方がコロナウイルスのため活動を控えている影響と推測される。 第5類相当となったことにより、60歳以上の方も活動意欲が増加し、目標値に近づいていけばと考える。		
	20歳～29歳の転出超過数	人	392	368	477	343	519	318	356	293	119	243	243	前年度に比べ、20代の転出超過は抑制され、目標値を達成した。しかし、15～19歳についても転出超過の傾向がみられることから、引き続き、雇用創出に係る取組を継続していく必要がある。		
	IT企業誘致数【累計】※カッコ内は単年度	社	-	3 (3)	3 (3)	6 (3)	7 (4)	9 (3)	9 (2)	12 (3)	14 (5)	18 (3)	18 (3)	IT企業の進出意欲は堅調であり、目標値を達成できた。		

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	目標 (R6)	所見
		②地域経済を支える産業の振興													
		(i) 企業誘致の推進	誘致企業数【累計】※カッコ内は単年度	社	-	3 (3)	3 (3)	8 (5)	7 (4)	13 (5)	9 (2)	18 (5)	15 (6)	28 (5)	大和IC工業団地への企業進出もあり、目標値を達成できた。
			新規雇用者数【累計】	人	-	16	13	70	47	180	42	290	70	510	コロナ禍による企業活動の停滞に伴う採用控えなどで目標値を達成できなかった。
		(ii) 創業支援の強化と事業承継の促進	創業に関する相談件数	件	238	242	140	246	161	250	218	254	-	262	数値の公表が10月予定
			事業承継に関する相談件数	件	44	48	83	53	60	58	76	64	-	77	数値の公表が10月予定
		(iii) 中小企業・小規模企業の成長支援	年間商品販売額（商業）	億円	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	-	5,746	数値の公表が10月予定
			年間製造品出荷額等（工業）	億円	2,786	2,786	2,963	2,786	3,117	2,878	2,924	2,878	-	3,232	数値の公表が10月予定
		(iv) 第一次産業の生産・流通の高度化	農業産出額	億円	242.3	243.0	221.7	243.5	231.4	244.0	223.2	244.5	226.7	245.5	販売単価の上昇等により前年度と比較して産出額は増加したが、目標には達していない。
			木材生産額（素材生産額）	億円	1.33	1.51	1.38	1.68	1.06	1.85	2.55	2.02	2.51	2.36	【達成】目標達成率124% ウッドショック等による材価の上昇は落ち着いたが、高値で維持しており、皆伐面積は減少していない。今後も、更に拡大できるよう、林業機械の確保や、人材育成等の支援を進めたい。
			漁業生産額	億円	169.7	169.9	170.2	170.1	146.6	170.3	174.7	170.5	135.8	170.9	令和4年度は、漁業生産額の大部分を占めるノリ養殖で、海況悪化等の影響もあり生産枚数が前年比52.8%と落ち込んだが、全国的なノリの不作の影響による価格高騰もあり、生産額は前年比77.7%にとどまった。
		(v) 未来を見据えたバイオマス産業の推進	バイオマス等関連企業の進出数【累計】※カッコ内は単年度	社	-	2 (2)	2 (2)	3 (1)	2 (0)	3 (0)	4 (2)	4 (1)	3 (-1)	4	R3年度進出の2社は創業されているが、R1年度に進出されていたグリーンラボが操業を停止された。